

インストールガイド - 日本語



Fujitsu Software ServerView Suite

# ServerView Fabric Manager V2.05

Installing Network Management

2015年12月版

---

# 製品名称の表記

本書では、本文中で使用される製品名称を次のように略して表記します。

## Windows Server 2012

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard	Windows Server 2012	Windows
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter		
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard		
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter		

## Windows Server 2008

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Standard	Windows Server 2008 R2 SP1	Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Enterprise		
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Datacenter		

## 仮想化ソフトウェア

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Hyper-V Server®	Hyper-V Server	Hyper-V
Microsoft® Hyper-V Server® 2008 R2	Hyper-V Server 2008 R2	
Microsoft® Hyper-V Server® 2012	Hyper-V Server 2012	
Microsoft® Hyper-V Server® 2012 R2		
System Center 2012 SP1 Virtual Machine Manager	SCVMM	System Center
System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager		
System Center 2012 SP1 Operations Manager	SCOM	
System Center 2012 R2 Operations Manager		
VMware vCenter Server 5.x	vCenter Server	vCenter Server
Vmware vCenter Server 6.x		

---

## 装置等

製品名称	本文中の表記
ServerView Fabric Manager	Fabric Manager SVFAB
ServerView Operations Manager	Operations Manager SVOM

---

# 著作権及び商標

Copyright © 2012-2015 Fujitsu All rights reserved.

使用されているハードウェア名とソフトウェア名は、各メーカーの商標名および商標です。

- Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper Vは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- VMware、VMwareロゴ、Virtual SMPおよびVMotionは、米国およびその他の地域におけるVMware, Inc.の登録商標または商標です。
- ServerViewは、富士通株式会社の登録商標です。

---

# 目次

1	はじめに.....	8
1.1.	アーキテクチャ.....	8
1.2.	対象者及び目的.....	10
1.3.	ハードウェア/ソフトウェア要件.....	11
1.3.1.	中央管理用サーバ(CMS).....	11
1.3.2.	仮想管理サーバ/仮想管理プラグイン.....	11
1.3.3.	管理コンソール.....	12
1.3.4.	管理対象ネットワーク装置.....	12
1.3.5.	使用ポート .....	13
1.4.	本書の表記 .....	15
2	Fabric Manager のインストール.....	16
2.1.	準備 .....	16
2.2.	インストール .....	17
2.2.1.	GUI ダイアログ形式インストール .....	17
2.2.2.	サイレントインストール .....	19
2.3.	インストール後の設定 .....	19
2.3.1.	ファイアウォールの設定と使用ポートの変更 .....	19
2.3.2.	管理対象ネットワーク装置の事前設定 .....	20
2.3.3.	仮想管理プラグインの設定 .....	20
2.4.	設定情報のバックアップリストア .....	20
2.4.1.	設定情報のバックアップ .....	21
2.4.2.	設定情報のリストア .....	21
2.5.	Fabric Manager のアップデート .....	22
2.5.1.	GUI ダイアログ形式アップデート .....	22
2.5.2.	サイレントアップデート .....	24
2.6.	Fabric Manager のアンインストール .....	25

---

2.6.1.	アンインストール後の設定 .....	26
2.7.	トラブルシューティング .....	26
2.7.1.	インストールが正常に行えない場合 .....	27
2.7.2.	Fabric Manager サービスの起動に失敗する場合 .....	30
<b>3</b>	<b>System Center プラグインのインストール .....</b>	<b>31</b>
3.1.	準備 .....	31
3.2.	インストール .....	31
3.3.	管理パック、アドインのインポート .....	33
3.3.1.	SVFAB の管理パックと拡張管理パックのインポート .....	33
3.3.2.	SCVMM 用アドインのインポート .....	36
3.4.	インストール後の設定 .....	37
3.4.1.	ファイアウォールの設定と使用ポートの変更 .....	37
3.4.2.	SNMP trap のサービス起動 .....	38
3.4.3.	SCOM による対象スイッチの検出 .....	38
3.4.4.	SC プラグインの初期設定 .....	38
	<b>アップデートインストール .....</b>	<b>41</b>
3.5.	管理パック、アドインのアップデート .....	42
3.5.1.	SVFAB の管理パックと拡張管理パックのアップデート .....	42
3.5.2.	SCVMM 用アドインのアップデート .....	43
3.6.	管理パック、アドインの削除 .....	43
3.6.1.	SCVMM 用アドイン の削除 .....	43
3.6.2.	SVFAB 拡張管理パックの削除 .....	44
3.6.3.	SVFAB 管理パックの削除 .....	44
3.7.	アンインストール .....	44
3.7.1.	アンインストール後の設定 .....	45
3.7.1.1.	ファイアウォールの設定 (ポートを閉じる) .....	45
3.7.1.2.	SNMP trap 設定 .....	45
3.8.	トラブルシューティング .....	45
3.8.1.	SVFAB 中央管理用サーバと接続できない .....	45

---

3.8.2.	管理パック・アドインの削除を行わず、SVFAB のアンインストールを行ってしまった場合.....	46
<b>4</b>	<b>vCenter プラグインのインストール.....</b>	<b>47</b>
4.1.	準備.....	47
4.1.1.	インストール全体の流れ.....	47
4.1.2.	インストール前の留意事項.....	47
4.2.	インストール .....	47
4.3.	インストール後の設定.....	49
4.3.1.	ファイアウォールの設定とポートの変更.....	49
4.3.2.	vCenter プラグインの登録 .....	50
4.4.	アップデートインストール .....	53
4.5.	アンインストール.....	55
4.5.1.	vCenter プラグインの登録解除.....	55
4.5.2.	vCenter プラグインのアンインストール .....	56
4.5.3.	アンインストール後の設定 .....	56
4.6.	トラブルシューティング .....	56
4.6.1.	vCenter プラグインの登録を解除せず、アンインストールを行った ....	56
<b>5</b>	<b>管理対象ネットワーク装置の設定 .....</b>	<b>58</b>
5.1.	IP アドレス/ゲートウェイの設定 .....	58
5.2.	SSH の設定 .....	58
5.3.	SNMP の設定 .....	59
5.4.	LLDP (Link Layer Discovery Protocol) の有効化 .....	59
5.5.	FTP サーバの設定 .....	60
5.6.	AMPP 機能の設定 .....	60
<b>6</b>	<b>データベース .....</b>	<b>61</b>
6.1.	データベースのバックアップリストア .....	61

---

# 1 はじめに

ServerView Fabric Manager (Fabric Manager、または略してSVFABと記載)は、Fujitsu ServerView Suiteのコンバージドファブリック管理/監視モジュールです。ServerView Operations Managerのプラグイン機能の一つであり、サーバの管理環境にコンバージドファブリックの管理を追加します。

Fabric Managerによるコンバージドファブリック管理には、以下のような重要なメリットがあります。

- ITインフラの自動監視によるコスト削減
- エラー監視によるネットワークダウンタイムの短縮
- 視覚的なUIによる管理の簡単化

また、VMware vSphereおよびMicrosoft Hyper-Vの2つの仮想環境に対し、それらの管理ソフトに統合して使用できるプラグインを提供します。VMware vSphere環境の場合、Fabric Managerが提供するvCenter ServerプラグインをvCenter Serverが動作する仮想管理サーバにインストールします。Microsoft Hyper-Vの場合、Fabric Managerが提供するSystem CenterプラグインをSCOMおよびSCVMMが動作する管理サーバにインストールします。

## 1.1. アーキテクチャ

管理コンソール、中央管理用サーバ(CMS)、監視対象コンバージドファブリック、ネットワークスイッチ装置、および連携に使用する仮想管理サーバと連携対象のサーバ、仮想サーバ、仮想ネットワーク類で構成されます。

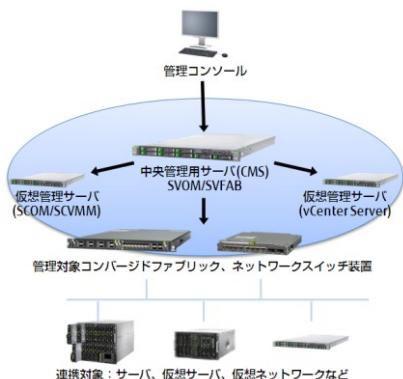


図 1: アーキテクチャ

	<b>管理コンソール</b> Fabric Managerにアクセスするための操作用端末です。
	<b>中央管理用サーバ(CMS)</b> ServerView Operations ManagerおよびFabric Managerがインストールされる管理用サーバです。
	<b>仮想管理サーバ</b> System CenterまたはvCenter Serverがインストールされるサーバです。System Center(SC)プラグインまたはvCenter Serverプラグインをインストールします。 中央管理用サーバと兼用できます。
	<b>管理対象コンバージドファブリック</b> Fabric Managerが管理するコンバージドファブリックスイッチです。既存のPRIMERGYスイッチブレードやサーバ収容レイヤ2スイッチも監視できます。
	<b>連携対象</b> サーバ、仮想サーバ、仮想ネットワークなど、コンバージドファブリックと接続され、コンバージドファブリックの管理機能が連携対象とする装置です。

---

## **1.2. 対象者及び目的**

本マニュアルは、ハードウェアおよびソフトウェアについての十分な専門知識をお持ちのシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。本マニュアルには、Fabric Managerの要件および、インストール方法が記載されています。

## 1.3. ハードウェア/ソフトウェア要件

### 1.3.1. 中央管理用サーバ(CMS)

ハードウェア	PRIMERGYサーバ。デュアルコア以上のCPU、1.0GB以上のディスクスペース、3.0GB以上の空きメモリが必要です。100Mbps-LAN以上のLANを使用します。
基本ソフトウェア	Windows Server 2008 R2 SP1 Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2
必須ソフトウェア	ServerView Operations Manager V6.30以降 Microsoft .Net Framework 3.5 (2008 R2の場合のみ) Microsoft .Net Framework 4.5 WindowsのFTPサーバ、SNMP Service、およびSNMP Trap Serviceを使用します。

### 1.3.2. 仮想管理サーバ/仮想管理プラグイン

ハードウェア	vCenter ServerやSystemCenterの要件に従います。これに加え、3.0GB以上のディスクスペース、2.5GB以上の空きメモリが必要です。
基本ソフトウェア	vCenter ServerおよびSystem Centerの動作環境に従います。
必須ソフトウェア	System Center 2012 SP1, System Center 2012 R2 vCenter Server 5.0, vCenter Server 5.1, vCenter Server 5.5 vCenter Server 6.0 Adobe Reader XI以降 (System Centerプラグイン利用時)

**i** 3種類のプラグイン(SVOMプラグイン、System Centerプラグイン、vCenter Serverプラグイン)は同時に使用することはできません。仮想管理サーバとしてSystem CenterとvCenter Serverを同時に使用する場合はSVOMプラグインをご使用ください。

**i** vCenter Server6.0はSVOMプラグインのみでサポートします。

### 1.3.3. 管理コンソール

ハードウェア	ServerView Operations ManagerやvCenter Serverの要件に従います。
基本ソフトウェア	ServerView Operations ManagerやvCenter Serverの要件に従います。
必須ソフトウェア	Internet Explorer 9以降 (SVOMプラグイン利用時) Adobe Reader X以降 (vCenter Serverプラグイン利用時) Java Runtime Environment 1.7以上

### 1.3.4. 管理対象ネットワーク装置

1台のサーバにインストールされた1つのFabric Managerによって、ここに記載するネットワーク装置を一括して管理できます。1台のサーバで管理できるネットワーク装置に台数制限は設定していませんが、およそその目安として256台を想定しています。コンバージドファブリックも複数管理できますが、登録するファブリックの数ではなく、そこに含まれるスイッチ台数で計算します。

#### コンバージドファブリックスイッチ

- コンバージドファブリックスイッチブレード(10Gbps 18/8)  
型名：PY-CFB101、管理可能モード：ファブリックモードのみ、  
ファームウェア版数：V02.01 NY00013以降
- コンバージドファブリックスイッチ(CFX2000R/F)  
型名：PY-CFX20R, PY-CFX20F、  
ファームウェア版数：V02.01 NY0013以降

#### PRIMERGYスイッチブレード

- スイッチブレード(10Gbps 18/8+2)  
型名：PY-SWB105、管理可能モード：Switchモード、またはEHMモード  
ファームウェア版数：V01.01 NY0024以降  
(SVOMプラグインのみでサポートします。)

- 
- スイッチブレード(10Gbps 18/8)  
型名：PY-SWB104、管理可能モード：Switchモード、またはEHMモード  
ファームウェア版数：V02.00 NY0048以降
  - スイッチブレード(1Gbps 36/12)  
型名：PY-SWB103、管理可能モード：Switchモード、またはEHMモード  
ファームウェア版数：6.18以降
  - スイッチブレード(1Gbps 36/8+2)  
型名：PY-SWB102、管理可能モード：Switchモード、またはEHMモード  
ファームウェア版数：6.28以降
  - スイッチブレード(1Gbps 18/6)  
型名：PY-SWB101、管理可能モード：Switchモード、またはEHMモード  
ファームウェア版数：6.18以降

#### サーバ収容レイヤ2スイッチ

- SR-X526R1 (ファームウェア版数 V01.01 以降)
- SR-X340TR1 (ファームウェア版数 V01.00 以降)
- SR-X324T2 (ファームウェア版数 V01.00 以降)
- SR-X316T2 (ファームウェア版数 V01.00 以降)

#### 連携する仮想ネットワークスイッチ

- VMWare vSphere標準仮想スイッチおよび分散仮想スイッチ  
(System Centerプラグインは連携しません)
- Microsoft Hyper-V 標準スイッチおよび論理スイッチ  
(System Centerプラグインのみが連携します)

### 1.3.5. 使用ポート

ポート	使用目的	変更
21/tcp	ftp 構成定義情報の更新処理や、フ	不可

	アームウェアの更新処理で利用するFTPサーバ	
162/udp	SNMP Trap SNMP Trapの受信	不可
25460/tcp	http 仮想管理サーバとのデータ通信	可 (サービス名: svfab-controller)
25461/tcp	http 仮想管理サーバとのデータ通信	可 (サービス名: svfab-psmgr)
25462/tcp	http 仮想管理サーバとのデータ通信	可 (サービス名: svfab-vsimg)
25463/tcp	http 仮想管理サーバとのデータ通信	可 (サービス名: svfab-vmgr)

表 1: 中央管理サーバ(CMS)に設定する受信ポート

ファイアウォールの設定を行う場合、上記のポート設定に加えて、任意のポートで20/tcpからのftpデータを受信可能なように中央管理サーバ(CMS)を設定してください。

Fabric Manager、および仮想管理プラグインは、情報を収集するために、登録されている装置の以下のポートにアクセスします。

ポート	使用目的	変更
21/tcp	FTP	不可
22/tcp	SSH	不可
161/udp,tcp	SNMP	不可

表 2: 送信先ポート

vCenterプラグインが使用する受信ポートを以下に記載します。

ポート	使用目的	変更
25464/tcp	vCenterプラグインのWeb サービス用に使用	可
25465/tcp		
25466/tcp		

---

25467/tcp		
-----------	--	--

表 3: vCenter プラグインが存在する仮想管理サーバに設定する受信ポート

vCenter プラグインを使用する場合、vSphere クライアントが vCenter プラグインとデータ送受信できるように、vSphere クライアントを動作させる端末に対して、vSphere クライアントが使用するポートに加えて、上記 25464～25467 のポートで送信できるようにファイアウォールを設定してください。

SVOM プラグインが使用するポートは SVOM に従います。SVOM が使用するポートに関しては、Operations Manager のインストールガイドをご覧ください。

## 1.4. 本書の表記

表記	説明
	データの損失や、デバイスの損傷の可能性があるリスクを表示します。
	追加関連情報とヒントを示します。
<b>太字</b>	インターフェース要素の名前を示します。
等間隔表示	パスおよびファイル名等、出力やシステム要素を示します。
<b>太字の等間隔表示</b>	キーボードを使用して入力するテキストを示します。
<a href="#">青字の文字列</a>	関連するトピックへのリンクを示します。
<abc>	実際の値と置き換える必要がある変数を示します。
[abc]	オプション(構文)を示します。
<b>Key Symbols</b>	キーボード上のキーを示します。大文字のテキストを入力する場合、 <b>SHIFT</b> キーを指定します。たとえば、A を入力する場合 <b>SHIFT</b> + <b>A</b> を押します。2つのキーを同時に押す場合は、2つのキーをプラス記号で連結して示します。

表 4: 表記規則

---

## 2 Fabric Managerのインストール

本章では、Fabric Managerを中央管理用サーバ(CMS)にインストールする手順、およびアンインストールする手順を説明します。

### 2.1. 準備

Fabric Managerソフトウェアのインストールを開始する前に、ServerView Operations Manager (6.30以降)がインストールされていない場合はインストールしてください。

Microsoft .Net Framework 4.5がインストールされていない場合はインストールしてください。また、Windows Server 2008 R2 SP1にFabric Managerをインストールする場合は、Microsoft .Net Framework 3.5も併せてインストールしてください。

必要に応じて中央管理サーバ(CMS)のFTPサーバサービスを有効にします。これは、FTPサーバ機能を持っていないスイッチに対してファームウェアの更新、および構成定義ファイルの適用を実行するのに必要です。コンパージドファブリックを含めFabric Managerが管理する多くのスイッチはそれ自体がFTPサーバ機能をもつので、ここでのサービス有効化は必要ありません。スイッチブレード(1Gbps 36/12)、スイッチブレード(1Gbps 36/8+2)、およびスイッチブレード(1Gbps 18/6)はFTPサーバ機能をもたないのでサービス有効化が必要です。また、ファームウェアの更新、および構成定義ファイルの適用をGUI経由で行わない場合も有効化の必要はないでしょう。

---

## 2.2. インストール

Fabric Managerを中央管理用サーバ(CMS)にインストールします。インストールは、Microsoft Windows Installerテクノロジに基づいた、分かりやすいGUIダイアログ形式のインストーラを使用します。

Windowsコマンドラインからのサイレントインストールも可能です。

- i ServerView Operations Manager (6.30以降)がインストールされていない場合はインストールしてください。
- i 古いバージョンのFabric Managerがインストールされている場合はアップデートウィザードが起動します。（「2.5 Fabric Managerのアップデート」参照）

### 2.2.1. GUIダイアログ形式インストール

#### インストール手順

1. Windows Serverの管理者権限を持つユーザでログオンします。
- i インストール中にデータベース編集を行うため、SQL Serverのデータベースに対する編集権限も持っている必要があります。
2. Fabric Manager媒体のSVFAB\_Management\_Server\_for\_Winフォルダに存在するsvfab.exeを実行します。
3. Fabric Managerのインストールウィザードが開いたら、「次へ」をクリックします。

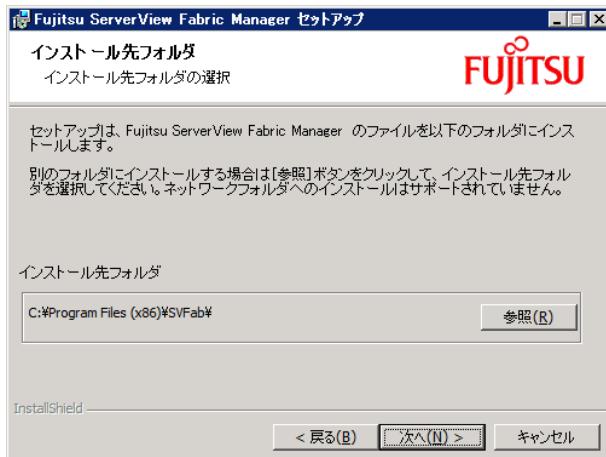


図 2: 「インストール先フォルダ」 ウィンドウ

4. インストールディレクトリを定義して「次へ」をクリックします。
5. ポートプロファイル関連機能を設定して「次へ」をクリックします。

**!** 無効化を選択すると、新規インストールをやり直さない限りプロファイル関連機能を有効に戻せないので注意が必要です。C-Fabricのポートプロファイルを自律的に操作する機能をもつServerView Resource Orchestratorのような運用管理ソフトウェアにC-Fabricのポートプロファイル操作を任せの場合のみ無効化を選択してください。ポートプロファイルに関する詳細は、コンバージドファブリックの機能説明書やFabric Managerの取扱説明書をご覧ください。

**i** 本ポートプロファイル関連機能の設定は、V2.01以降で設定できます。

6. 「インストール>」をクリックしてインストールを開始します。最後のウィンドウにインストール結果が表示されるので、「終了」をクリックしてインストールを完了します。



**Fabric Manager**関連のファイルを編集/追加/削除すると、動作に影響を及ぼす可能性があります。このマニュアルに記載されている以外のいかなる操作も絶対に行わないでください。

### 2.2.2. サイレントインストール

媒体に含まれるFabric Managerのフォルダ構成をインストールサーバにコピーしてください。

次に、パラメータを指定します。コピーしたフォルダのInternalディレクトリにあるsvfab\_silent\_install.iniファイルを開き、ファイルに記載されているMAINDIRパラメータの値にインストール先のフォルダを絶対パス形式で設定してください。ポートプロファイル関連機能を無効化する場合はPORTPROFILEパラメータ行の行頭のセミコロン(;)を消去してください。



PORTPROFILEパラメータは、V2.01以降で設定できます。

最後に、サイレントインストールを実行します。管理者権限とデータベース編集権限を持つユーザでログオンし、コマンドプロンプト上で、以下のコマンドを実行してください。

```
start /wait svfab.exe /s /v/qn
```

## 2.3. インストール後の設定

### 2.3.1. ファイアウォールの設定と使用ポートの変更

Fabric Managerが使用するポートは「1.3.5 使用ポート」に記載されています。それぞれのポートが利用できるようファイアウォールを設定してください。

---

**i** FTPプロトコルではデータの送受信のためのポートが自動的に割り当てられます。通信相手(管理対象スイッチ)のポート番号20から送信される通信の受信を許可してください。

また、他のアプリケーションとポート番号が重なる場合にはポート番号の変更を検討してください。`%SystemRoot%\System32\drivers\etc\services` ファイルに記載されているサービスのポート番号を変更し、Fabric Manager サービスを再起動することで変更が反映されます。

### 2.3.2. 管理対象ネットワーク装置の事前設定

ネットワーク装置をFabric Managerで管理するためには、管理対象ネットワーク装置側に事前設定が必要です。詳しくは「5 管理対象ネットワーク装置の設定」を参照してください。

### 2.3.3. 仮想管理プラグインの設定

vCenterプラグインをご使用の場合のみ設定が必要となります。Fabric Manager をインストール後、Fabric Managerの情報を更新します。vCenterプラグイン画面を使用して以下の操作を実施してください。「管理機能ボックス」の [Management Menu] – [Installation] – [Plugin Configuration]をクリックしてプラグイン設定画面を表示し、情報設定後[Save]ボタンを押してください。以前に設定した情報と変更がない場合にも[Save]ボタンを押していただく必要があります。

## 2.4. 設定情報のバックアップとリストア

Fabric Managerの設定情報のバックアップ手順、およびリストアする手順を説明します。

---

 設定情報をリストアする場合は、最新のバージョンにアップデートした上でリストアを実施してください。V2.00にリストアを実施するとC-Fabricのポートプロファイルを削除してしまいます。

#### 2.4.1. 設定情報のバックアップ

Fabric Managerの設定情報をバックアップします。

1. コントロールパネルにアクセスし、「管理ツール」を選択します。
2. 「管理ツール」から「サービス」を選択します。
3. 「SVFAB Service」を右クリックし、「停止」を選択してください。停止後、状態が空欄（停止）であることを確認してください。
4. Fabric Managerデータベース(SVFabDB)をバックアップします。

 Fabric ManagerはServerView Operations Managerが提供するSQL Serverを使用します。データベースのバックアップおよびリストアに関する操作仕様および詳細については、ServerView Operations Managerのマニュアルをご覧ください。なお、SVFABのデータベースのバックアップファイル名は SVFabDBData.bakとなります。

5. 「SVFAB Service」を右クリックし、「開始」を選択してください。

#### 2.4.2. 設定情報のリストア

Fabric Managerの設定情報をリストアします。

 Network Port Profileや仮想ファブリックの情報は、リストアした後にC-Fabricから取得した情報で更新されます。C-Fabric自体をもとの状態に戻

---

す必要があるときは、同時にC-Fabric自体をバックアップ/リストアしてください。アップデートインストールに失敗した場合の復旧手段としては、C-Fabric自体のリストアは不要です。

1. コントロールパネルにアクセスし、「管理ツール」を選択します。
2. 「管理ツール」から「サービス」を選択します。
3. 「SVFAB Service」を右クリックし、「停止」を選択してください。停止後、状態が空欄（停止）であることを確認してください。
4. 「2.4.1 設定情報のバックアップ」でバックアップしたFabric Managerデータベース(SVFabDB)をリストアします。
5. 「SVFAB Service」を右クリックし、「開始」を選択してください。

## 2.5. Fabric Managerのアップデート

Fabric Managerのコンポーネントをアップデートします。Fabric Managerの設定情報はアップデート後に引き継がれますので、万が一の事態に備えて事前に設定情報をバックアップしておくことを推奨します。（「2.4.1 設定情報のバックアップ」参照）

### 2.5.1. GUIダイアログ形式アップデート

#### アップデート手順

1. Windows Serverの管理者権限を持つユーザでログオンします。
2. Fabric Manager媒体のSVFAB\_Management\_Server\_for\_Winフォルダに存在するsvfab.exeを実行します。

- 
3. Fabric Managerのアップデートウィザードが開いたら、「はい」をクリックして、アップデートを開始します。後のウィンドウにアップデート結果が表示されるので、「終了」をクリックしてください。

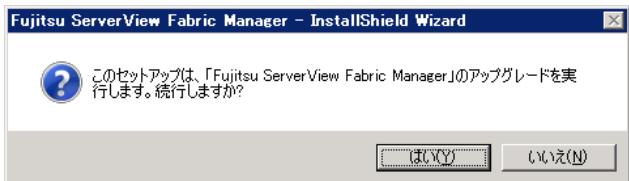


図 3: アップデートウィザード

4. 最後に以下の記載にしたがってJavaとInternet Explorerのキャッシュを削除した上で、GUIを起動してください。これでアップデートは完了です。

#### Javaのキャッシュの場合

Java コントロールパネルを起動し、「一般」タブの「インターネット一時ファイル」の「設定」より「ファイルの削除」を行ってください。

#### Internet Explorer のキャッシュの場合

[ツール] - [インターネットオプション]を起動し、「全般」タブの「閲覧の履歴」枠で「削除」を開き、インターネット一時ファイルの削除を行ってください。

**!** 途中でポートプロファイル関連機能の無効化を選択する画面が表示されることがあります。無効化を選択すると、新規インストールをやり直さない限りプロファイル関連機能を有効に戻せないので注意が必要です。  
C-Fabricのポートプロファイルを自律的に操作する機能をもつServerView Resource Orchestratorのような運用管理ソフトウェアにC-Fabricのポートプロファイル操作を任せた場合のみ無効化を選択してください。ポートプロファイルに関する詳細は、コンバージドファブリックの機能説明書やFabric Managerの取扱説明書をご覧ください。

---

 本ポートプロファイル関連機能の設定は、V2.01以降で設定できます。

 更新対象のファイルが使用中などでファイルを更新できなかった場合、アップデート終了後にシステム再起動を要求するメッセージが表示されます。

### 2.5.2. サイレントアップデート

媒体に含まれるFabric Managerのフォルダ構成をインストールサーバにコピーしてください。

次に、パラメータを指定します。ポートプロファイル関連機能を無効化する場合は、コピーしたフォルダのInternalディレクトリにあるsvfab\_silent\_install.iniファイルを開き、PORTPROFILEパラメータ行の行頭のセミコロン(";)を消去してください。

 PORTPROFILEパラメータは、V2.01以降で設定できます。

管理者権限を持つユーザでログオンし、コマンドプロンプト上で、以下のコマンドを実行してください。

```
start /wait svfab.exe /s /v/qn
```

 更新対象のファイルが使用中などでファイルを更新できなかった場合、アップデート終了後に自動的にシステム再起動を実施します。自動的に再起動を実施したくない場合はREBOOT="ReallySuppress"を指定して実行してください。終了後、システム再起動を必ず実施してください。

```
start /wait svfab.exe /s /v"/qn REBOOT=¥"ReallySuppress¥""
```

---

## 2.6. Fabric Managerのアンインストール

インストールされているFabric Managerのコンポーネントをすべて削除します。必要であれば、データベースのバックアップを実施してください。（「6.1 データベースのバックアップ」参照）

 アンインストールの実行中にアンインストーラの強制停止はおこなわないでください。処理が完了するまでおまちください。

 アンインストールを実行する前に、データベースや、インストールフォルダを参照していないことを確認してください。また、スイッチに対する操作（装置構成情報の適用、ファームウェアの更新など）が行われていないことを、イベント情報で確認してください（開始イベント（ID：15404）が発行されているすべての装置・操作の組み合わせに対し、正常終了（ID：15405）またはエラー終了イベントが発行されていることを確認してください）。データベースや、インストールフォルダを参照していた場合、もしくは、スイッチに対する操作が継続していた場合、ファイルやデータベースの設定が消されずに残ってしまうことがあります。さらに、この場合には、アンインストール完了後にサーバの再起動を要求されることがあります。

 アンインストールは、インストールを行ったユーザで実行する必要があります。また、個別にデータベースを用意している場合、データベースに対する編集権限を持つユーザで実行する必要があります。別ユーザでアンインストールを行った場合、ファイルやデータベースの設定が消されずに残ってしまう場合があります。

Fabric Managerは、以下の手順でアンインストールします。

1. コントロールパネルにアクセスし、「プログラムと機能」を起動します。

- 
2. 「Fujitsu ServerView Fabric Manager」を選択し、メニューから「アンインストール」を選択します。アンインストール確認画面が表示されます。「はい」を選択するとパッケージが完全にアンインストールされます。OSの設定によっては確認画面が表示されない場合があります。

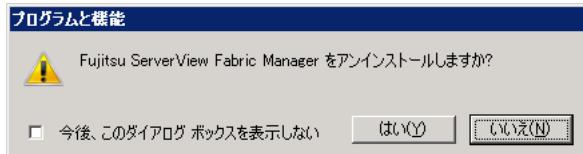


図 4: アンインストール確認画面

## 2.6.1. アンインストール後の設定

ファイアウォールの設定を確認し、Fabric Managerのために開けたポートを閉じてください。

## 2.7. トラブルシューティング

本章では、トラブルが発生した場合の対処方法を示します。対処方法に従っても問題が解決しない場合は、調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。

調査資料の採取は、取扱説明書の「6.1 ログ収集コマンド」を参照してください。

**i** 問題が発生した場合は、すみやかに調査資料を採取してください。時間の経過とともに、調査に必要な情報が失われてしまう可能性があります。

トラブルの対処のためにSQL Server Configuration Managerを使用することができます。SQL Server Configuration Managerは以下のように起動します。

### Windows Server 2008 R2 SP1の場合

- 
- 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Microsoft SQL Server <バージョン>」 - 「構成ツール」 - 「SQL Server 構成マネージャー」の順に選択します。

#### 'Windows Server 2012の場合

[Windows]キー- 「すべてのプログラム」 - 「Microsoft SQL Server <バージョン>」 - 「構成ツール」 - 「SQL Server 構成マネージャー」の順に選択します。

#### 2.7.1. インストールが正常に行えない場合

- ハードウェア／ソフトウェア要件を確認してください。（「1.3 ハードウェア／ソフトウェア要件」参照）
- 実行ユーザにデータベースの編集権限がない可能性があります。  
データベースに対する編集権限を持つユーザでログオンし、インストールを行ってください。
- Fabric Managerをインストールした事がある装置の場合、ソフトウェアのアンインストールがうまく行えていない可能性があります。以下の手順により手動でアンインストールしてください。
  - サービス  
以下のコマンドを実行し、サービスが登録されていないかを確認してください。  

```
sc query svfab_service
```

サービスが登録されている場合は、サービスを停止後、削除してください。  

```
sc stop svfab_service
sc delete svfab_service
```
  - データベース

---

以下のコマンドを実行し、データベースの一覧を確認し、SVFabDB データベースが存在しているかどうかを確認してください。

```
sqlcmd /S (local)¥<sql_instance> -Q "select name from sys.databases;"
```

存在していた場合は、以下のコマンドを実行し、削除してください。

```
sqlcmd /S (local)¥<sql_instance> -Q "drop database SVFabDB;"
```

**i** 上記コマンドの実行に失敗する場合、データベースに対する編集権限がない可能性があります。インストールを行ったユーザまたは、データベースの編集権限を持つユーザでログオンして実行してください。

データベースファイル**SVFabDBLog.ldf**および、**SVFabDBData.mdf**を削除します。このファイルは SQL Server の Data フォルダにあります。このフォルダの場所は、使用する SQL Server のバージョンに依存します。データフォルダの場所は SQL Server Configuration Manager を利用して確認できます。以下の手順でデータフォルダを確認し、該当ファイルを削除してください。

1. SQL Server Configuration Manager を起動します。

2. インスタンスを選択します。

「SQL Server のサービス」をクリックします。詳細ペインで、**SQL Server (SQLSERVERVIEW)** を右クリックします。

3. プロパティを取得します。

サービスのドロップダウンリストから、「プロパティ」を選択します。

「詳細設定」タブを選択します。

「データ パス」に記載されているパスがデータフォルダになります。

- データベースバックアップジョブ

データベースバックアップジョブが存在する場合は、削除してください。

データベースバックアップジョブは次の方法で確認できます。

---

## SQL Server のExpressバージョンの場合

バックアップジョブはWindowsタスクスケジューラで管理します。タスクのプロパティ画面で「履歴」タブでジョブを確認します。

## SQL Serverのフルバージョンの場合

バックアップジョブはSQL Server Management Studioで管理します。SQL Serverインスタンスをクリックして、「SQL Server Agent」 - 「ジョブ」を選択しジョブを確認します。

- ファイル

インストールフォルダ配下にファイルが存在する場合は、削除してください。

- レジストリ

以下のレジストリが存在するかを確認してください。

- HKEY\_CLASSES\_ROOT\Installer\Products\4AB880C552711C0409B21BE7609DFAFE
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\{5C088BA4-1725-40C1-902B-B17E06D9AFEF}
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Installer\UserData\S-1-5-18\Products\4AB880C552711C0409B21BE7609DAFE
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Fujitsu\ServerView Fabric Manager

上記レジストリが存在する場合は、レジストリエディタで削除してください。



レジストリの設定を変更する前には、かならずレジストリ全体または、一部のバックアップをおこなってください。

- servicesファイル

---

以下のファイルにSVFABのポート設定が残っている場合は、テキストエディタを利用して該当行を削除してください。SVFABのポート設定は "svfab-" でじまります。

```
%windir%¥System32¥drivers¥etc¥services
```

- プログラムメニュー

Fabric Managerのプログラムメニューが以下に登録されています。以下のフォルダが存在している場合は、フォルダを削除してください。

```
%PROGRAMDATA%¥Microsoft¥Windows¥Start  
Menu¥Programs¥Fujitsu¥ServerView Suite¥Fabric Manager
```

上記のいずれの条件にも該当しない場合は再度インストールを行い、問題が解決しない場合は、SVFAB中央管理用サーバの以下のログを採取し、当社技術員に連絡してください。

```
<%TEMP%>¥svfab_install.log
```

## 2.7.2. Fabric Managerサービスの起動に失敗する場合

- ハードウェア／ソフトウェア要件を確認し、条件を満たしていることを確認してください。（「1.3 ハードウェア／ソフトウェア要件」参照）
- 起動および、使用ポートを参照し、ポートの競合が発生していないかを確認してください。競合が発生している場合は、ポート番号を変更してください。

---

# 3 System Centerプラグインのインストール

本章では、SVFAB System Centerプラグインを仮想管理サーバにインストールする方法を説明します。

## 3.1. 準備

System Centerプラグイン（以降、SCプラグインと称す）は仮想管理サーバとしてSCOMおよびSCVMMが導入されているサーバ上にインストールします。SCプラグインのインストール要件については、「1.3 ハードウェア/ソフトウェア要件」を参照してください。SCプラグインのインストールを開始する前に、SCOMとSCVMMがインストールされていることを確認してください。

## 3.2. インストール

SCOMおよびSCVMMが導入されているサーバで、Fabric Manager媒体のsvfab\_scpluginフォルダに存在する「svfab\_scplug-in.exe」を管理者権限で実行します。SCプラグインのインストールはダイアログ形式で進みます。

プログラムを起動すると、インストーラ起動画面が表示されます。「次へ (N)>」をクリックして、SCプラグイン インストールウィザードを開始すると、インストール先の選択画面が表示されるので、インストールフォルダを指定します。

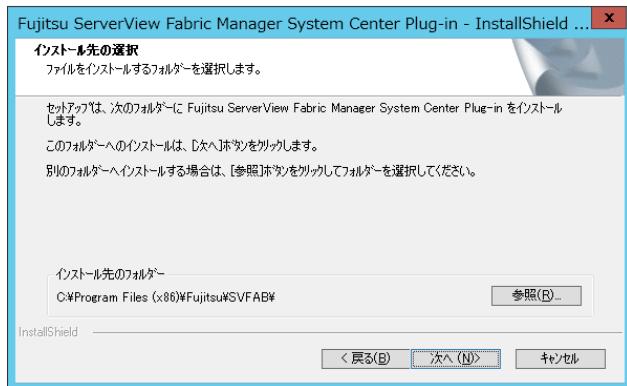


図 5: インストール先の選択画面

デフォルトでは、C:\Program Files(x86)\Fujitsu\SVFAB\フォルダが設定されています。

「次へ (N)>」をクリックすると、インストールが開始されます。インストールが完了すると、ウィザードの完了画面が表示されます。ウィザードの完了画面にインストールの結果が表示されます。「完了」をクリックしてインストーラを終了します。

**SCプラグイン 関連のファイルを編集/追加/削除すると、動作に影響を及ぼす可能性があります。このマニュアルに記載されている操作以外のいかなる操作も絶対に行わないでください。**

---

### 3.3. 管理パック、アドインのインポート

SCプラグインを構成する管理パック、アドインは3種類ありそれぞれの機能、依存関係および適用先について以下に示します。

プラグイン	機能	適用先	依存関係
SVFAB管理パック	物理スイッチの構成情報を管理する機能を提供します。	SCOM	
SVFAB拡張管理パック	SVFAB管理パックの拡張機能を提供します。	SCOM	SVFAB管理パック
SCVMM用SVFABアドイン	仮想/物理スイッチの構成図を表示する機能を提供します。	SCVMM	※1

表 5: プラグインの種類

※1 SCVMM用SVFABアドインはインストール時の依存関係はありませんが、SVFAB拡張管理パックと連携して動作するため、SVFAB拡張管理パックもインポートする必要があります。

#### 3.3.1. SVFABの管理パックと拡張管理パックのインポート

SCOMを起動し、[管理] - [管理パック]を選択すると現在インポートされている管理パックの一覧が表示されます。

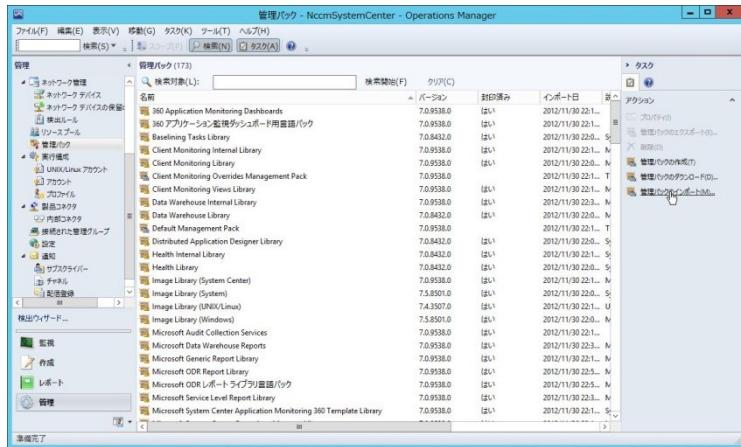


図 6:インポート済の管理パックの一覧

画面右側の[タスク] - [アクション] - [管理パックのインポート]を選択します。

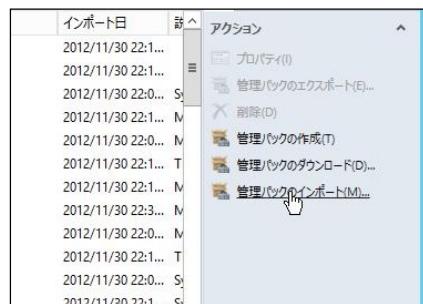


図 7: タスク(拡大イメージ)

管理パックのインポート画面が表示されるので[+追加]を選択し、[ディスクから追加する]を選択します。確認メッセージが出るので、[いいえ]ボタンをクリックします。

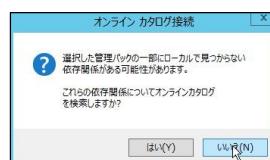


図 8: 確認メッセージ

ファイル選択ダイアログから以下のパスのファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

パス：<インストールフォルダ>\SystemCenterPlugin\SCOM\Management Pack\Fujitsu.Ethernet.Switches.mp

同様の手順にて以下のファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

パス：<インストールフォルダ>\SystemCenterPlugin\SCOM\Management Pack\SVFAB.Advanced.Management.Pack.mp

 SCOMにインポートする2つのプラグインには依存関係があるため、SVFAB管理パックより先に、SVFAB拡張管理パック

(SVFAB.Advanced.Management.Pack.mp)を選択をしようとすると、「この管理パックの依存関係が見つかりません」というエラーが表示されます。

インポートリストに対象の管理パックが追加されるので、[インストール]ボタンをクリックします。

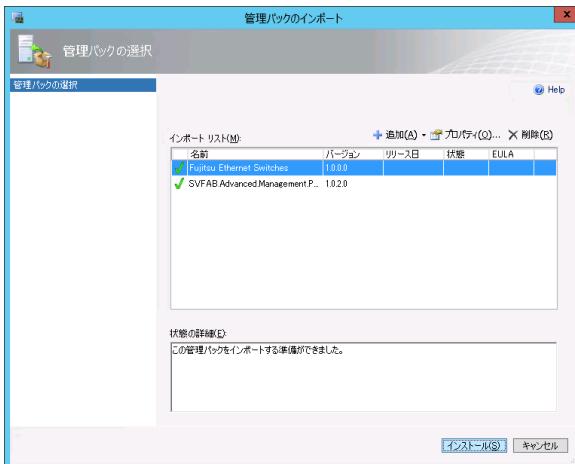


図 9: 管理パックの追加

「インポートリスト」の「状態」が「インポート済み」に変わります。

---

[管理] - [管理パック]の一覧(図10参照)に以下のプラグインが表示されいればSCOMへのインポートは完了です。

- Fujitsu Ethernet Switches
- SVFAB Advanced Management Pack

### 3.3.2. SCVMM用アドインのインポート

**i** SCVMM用アドインは、インポートしたユーザのみ使用可能になるため、運用ユーザごとにインポートする必要があります。

SCVMMを起動します。[設定]メニューを選択し、リボンメニューから[コンソールアドインのインポート]を選択します。

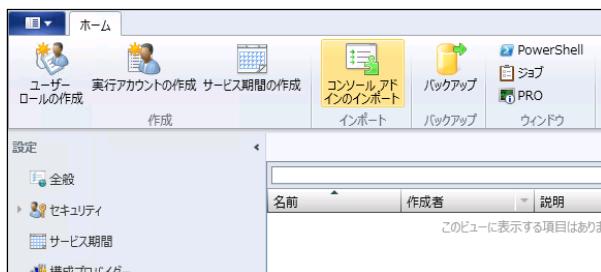


図 10: コンソールアドインのインポート

「コンソールアドインのインポートウィザード」画面が表示されるので、[参照]ボタンをクリックします。ファイル選択ダイアログが表示されるので、以下のファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

パス:<インストールフォルダ>\SystemCenterPlugin\SCVMM\SVFABSCVMM.zip

「このアドインのインストールを続行する」にチェックを入れ、[次へ]ボタンをクリックします。この際、下図のようにクラスライブラリに関連する警告メッセージが表示されますが、インストールおよびプラグイン機能に影響はありません。

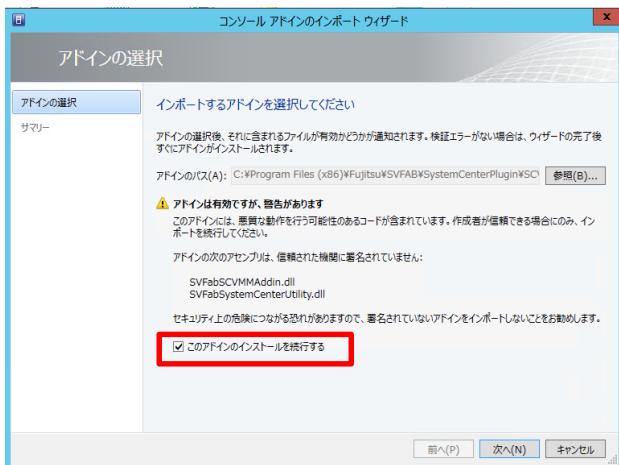


図 11: コンソールアドインのインポート2

確認画面に遷移しますので、続けて[完了]ボタンをクリックします。

「設定」の一覧に「SVFAB SCVMM Add-in」、リボンメニューに「SVFAB System Center Plug-in」が追加されていればインストールは完了です。

## 3.4. インストール後の設定

### 3.4.1. ファイアウォールの設定と使用ポートの変更

SCプラグインが使用するポートは「1.3.5 使用ポート」に記載されています。それぞれのポートが利用できるようファイアウォールを設定してください。

また、他のアプリケーションとポート番号が重なる場合にはポート番号の変更を検討してください。変更方法は、「3.4.4 SCプラグインの初期設定」を参照してください。

### 3.4.2. SNMP trap のサービス起動

[管理ツール] - [サービス]を開いて、SNMP trapが起動していることを確認します。停止していた場合、SNMP trapの状態を「開始（実行中）」に変更します。

### 3.4.3. SCOMによる対象スイッチの検出

SCOMから[管理] - [ネットワーク管理] - [検出ルール]を選択し、対象となるスイッチの情報を登録します。その際、アクセスモードは「SNMP」または「ICMP およびSNMP」を選択してください。

**i** 検出ルールについてのより詳細な情報はSCOMの画面のHelpボタンより確認できます。

**i** コンバージドファブリックを登録する場合、ファブリック仮想代表IPアドレスを指定してください。物理スイッチを登録する場合、管理用のIPアドレスを指定してください。

登録が完了したら、[監視] - [ネットワークの監視] - [ネットワークデバイス]に対象となるスイッチが検出されていることを確認します。

### 3.4.4. SCプラグインの初期設定

SCOMのSCプラグイン機能を使ってSVFABの設定をします。設定方法は検出したスイッチの種類に依存します。

物理スイッチを検出した場合、[監視] - [Fujitsu Ethernet Switches] - [Devices]の画面で、任意のデバイスを選択後、[ノードタスク] - [SVFAB Settings]を選択します。

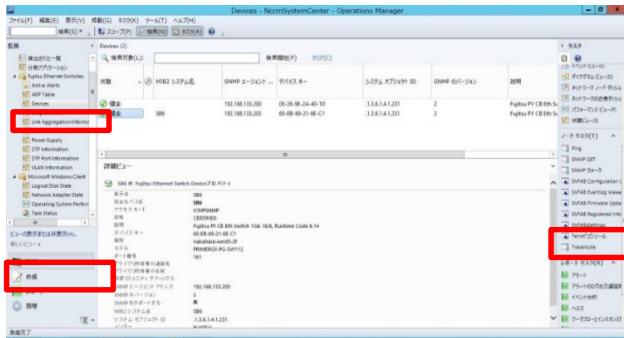


図 12: Devices画面

コンバージドファブリックを検出した場合、[監視] - [ServerView Fabric] - [Fabric Information]の画面で、任意のデバイスを選択後、[タスク] - [SVFAB Settings]を選択します。

プラグイン設定画面が表示されますので各入力項目に値を設定します。

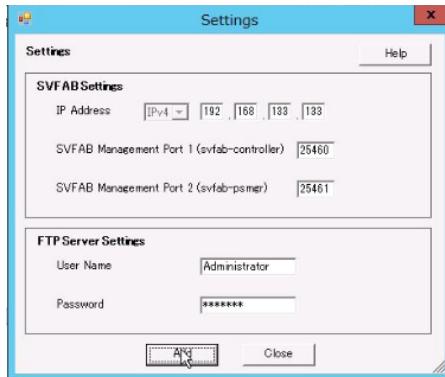


図 13: SVFAB Setting画面

項目名	設定内容
IP Address	SVFAB中央管理用サーバのIPアドレス
SVFAB Management Port1(svfab-controller)	SVFAB中央管理用サーバのポート番号 接続先のSVFAB中央管理用サーバの設定に合わせます。 (デフォルト値：25460)
SVFAB Management	SVFAB中央管理用サーバのポート番号

---

Port2(svfab-psmgr)	接続先のSVFAB中央管理用サーバの設定に合わせます。 (デフォルト値：25461)
--------------------	--

表 6: SVFAB Settingsの設定項目

以下の設定はファームウェア更新時にFTPサーバを必要とするネットワークスイッチを管理対象とする場合に必要となります。（使用しない場合はFTPの設定は不要です。）

また、事前にSVFAB中央管理用サーバ側でFTPサーバの設定・起動が完了している必要があります。

項目名	設定内容
User Name	FTPサーバに接続するためのユーザ名
Password	FTPサーバに接続するためのパスワード

表 7: FTP Server Settingsの設定項目

[Add]ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されるので[はい]ボタンをクリックします。

FTPの設定を行わない場合、下記のメッセージが表示されれば、設定は完了です。SCOM上でのSCプラグイン機能が利用可能になります。



図 14: 登録完了画面

FTPの設定を行った場合、下記のメッセージが表示され、Eventlog Viewerに「Modifying FTP information end.」が表示されれば、設定は完了です。SCOM上でのSCプラグイン機能が利用可能になります。

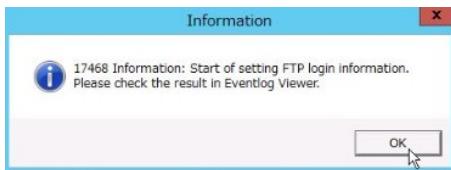


図 15: 登録完了画面

- i** 後から、SVFAB SettingsのIP Addressを修正することで、接続するSVFAB中央管理用サーバを変更することが可能ですが。その際、FTPの設定も変更先の環境に合わせて変更が必要になります。

## アップデートインストール

アップデートインストール方法について説明します。

SCOM、およびSCVMMが導入されているサーバで、アップデートするバージョンの「svfab\_scplug-in.exe」を管理者権限で実行します。SCプラグインのアップデートインストールはダイアログ形式で進みます。

- i** インストールウィザードの表示までしばらく時間がかかることがあります。
- i** インストールされているFabric Managerと同じ「svfab\_scplugin.exe」を実行すると、アプリケーションの削除を確認する画面が表示されます。「はい」ボタンをクリックするとFabric Managerがアンインストールされてしまうので、「いいえ」ボタンをクリックしてプログラムを終了してください。
- i** アップデートインストール中に、「現在使用中で、更新が必要なファイルがあります。」というポップアップが表示された場合、無視をクリックしてください。

- 
1. インストールウィザード起動後「次へ (N)>」をクリックし、インストール先の選択画面に進みます。System Center プラグインのインストール先のフォルダを指定します。「次へ (N)>」をクリックすると、インストールが開始されます。
  2. ウィザードの完了画面にインストールの結果が表示されたら、「完了」をクリックしてインストーラを終了します。
  3. システムを再起動する。

 SC プラグイン 関連のファイルを編集/追加/削除すると、動作に影響を及ぼす可能性があります。このマニュアルに記載されている操作以外のいかなる操作も絶対に行わないでください。

### 3.5. 管理パック、アドインのアップデート

#### 3.5.1. SVFAB の管理パックと拡張管理パックのアップデート

 管理パックのアップデートは、各管理パックのバージョンが更新された場合のみに必要な作業です。SC プラグインのバージョンが更新された場合でも、含まれる管理パックのバージョンに変更がない場合は作業不要です。

1. SCOM を起動し、[管理] - [管理パック] を選択し管理パック画面を表示します。
2. 画面右側の[タスク] - [アクション] - [管理パックのインポート] を選択し、管理パックのインポート画面を表示します。
3. [+追加] を選択し、[ディスクから追加する] を選択します。オンライン カタログ接続のダイアログが表示された場合は[いいえ]を選択します。

- 
4. ファイル選択ダイアログでアップデートする管理パックを選択し、[開く]ボタンをクリックします。管理パックは下記のフォルダに配置されています。  
パス：<インストールフォルダ>\SystemCenterPlugin\SCOM\Management Pack
  5. インポートリストにアップデート対象として選択した管理パックが追加されます。バージョンが現在インポートされているものよりも新しい場合、[インストール]ボタンが有効となるのでクリックします。
  6. 「インポートリスト」の「状態」が「インポート済み」に変ればアップデートは完了です。

### 3.5.2. SCVMM用アドインのアップデート

**i** SCVMM用アドインは、インポートしたユーザのみ使用可能になるため、運用ユーザごとにアップデートする必要があります。

1. 「3.6.1 SCVMM用アドイン の削除」に従って現在インポートされているSCVMMアドインを削除します。
2. 「3.3.2 SCVMM用アドインのインポート」に従ってアップデートするSCVMMアドインをインポートします。

## 3.6. 管理パック、アドインの削除

### 3.6.1. SCVMM用アドイン の削除

**i** 本作業は、SCVMM用アドインをインポートしているすべてのユーザで行ってください。

---

SCVMMにて[設定] - [コンソールアドイン] - [SVFAB System Center Plugin SCVMM Add-In]を選択し、リボンメニューの[削除]をクリックします。警告メッセージが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。

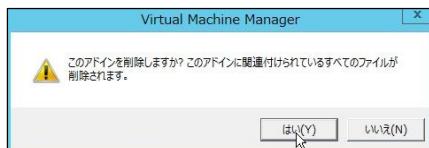


図 16: SCVMM登録解除確認画面

リストから「SVFAB SCVMM Add-In」と、リボンメニューの「SVFAB SCVMM Add-In」が消えれば削除完了です。

### 3.6.2. SVFAB拡張管理パックの削除

本作業は管理者権限で実行してください。[管理] - [管理パック]を選択すると現在インポートされている管理パックの一覧が表示されます。一覧から「SVFAB Advanced Management Pack」を選択し、画面右側の[アクション] - [削除]を選択します。確認メッセージが表示されるので[はい]ボタンをクリックします。「管理パック」の一覧から「SVFAB Advanced Management Pack」が消えていればアンインストール完了です。

### 3.6.3. SVFAB管理パックの削除

3.6.2と同様の手順で、SCOM上からSVFAB管理パックを削除します。

対象の管理パック名：Fujitsu Ethernet Switches

## 3.7. アンインストール

SCプラグインのアンインストール作業は管理者権限で実行してください。

- 
1. コントロールパネルにアクセスし、「プログラムと機能」を選択します。
  2. 「Fujitsu ServerView Fabric Manager System Center Plug-in」を右クリックし、表示されたコンテキストメニューで、[アンインストール]をクリックします。
  3. 確認画面で[はい(Y)]をクリックし、SCプラグインのアンインストールを開始します。
  4. 「プログラムと機能」の画面から「SVFAB System Center Plug-in」が削除されたことを確認します。

### 3.7.1. アンインストール後の設定

#### 3.7.1.1. ファイアウォールの設定（ポートを閉じる）

SCプラグインのインストール時に「3.4.1 ファイアウォールの設定」でポートを解放した場合、アンインストール後にファイアウォールの設定を確認し、必要に応じてポートを閉じてください。

#### 3.7.1.2. SNMP trap 設定

SCプラグインのインストール時に「3.4.2 SNMP trap の」でSNMP trapを開始した場合、アンインストール後にSNMP trapの状態を確認し、必要に応じて状態を停止してください。

## 3.8. ブラブルシューティング

### 3.8.1. SVFAB中央管理用サーバと接続できない

以下の手順に従い、確認を行ってください。

- 
1. SVFAB中央管理用サーバとのネットワークが接続されていることを確認してください。
  2. ネットワーク接続されている場合、SVFAB中央管理用サーバ上でサービスが起動していることを確認してください。
  3. SCプラグインのプラグイン設定画面(SVFAB Settings)において、SVFAB中央管理用サーバのIP アドレス(IP Address)と物理監視用ポート(Port for Physical Monitoring)が正しく設定されていることを確認してください。

### **3.8.2. 管理パック・アドインの削除を行わず、SVFABのアンインストールを行ってしまった場合**

SCプラグインが提供する機能について、正常に使用ができない状態となります  
が、アンインストール後でも、プラグイン・管理パックの削除は可能です。

以下の手順で、プラグイン・管理パックの削除を実施してください。

1. 「3.6.1 SCVMM用アドイン の削除」
2. 「3.6.2 SVFAB拡張管理パックの削除」
3. 「3.6.3 SVFAB管理パックの削除」

登録解除後、引き続き「3.7.1 アンインストール後の設定」を実施してください。

---

# 4 vCenterプラグインのインストール

本章では、SVFAB vCenterプラグインを仮想管理サーバにインストールする方法を説明します。

## 4.1. 準備

### 4.1.1. インストール全体の流れ

vCenterプラグインは仮想管理サーバとしてvCenter Serverが導入されているサーバにインストールします。vCenterプラグインのインストール要件について、「1.3 ハードウェア/ソフトウェア要件」を確認してください。インストールを開始する前に、vCenter Serverに接続する管理コンソールにVMware vSphere Clientがインストールされていることを確認してください。

### 4.1.2. インストール前の留意事項

vCenterプラグインのインストール後、vCenterプラグインの初期設定を行うためにvCenter Serverが導入されたサーバのホスト名またはIPアドレス、vCenter Serverにアクセスするためのユーザ名とパスワード、加えてvSphere ClientがvCenter Serverと通信するためのhttpsポート番号を事前に用意してください。

## 4.2. インストール

vCenterが導入されているサーバで、Fabric Manager媒体のsvfab\_vcpluginフォルダに存在する「svfab\_vcplugin.exe」を管理者権限で実行します。vCenterプラグインのインストールはダイアログ形式で進みます。

- 
1. プログラムを起動すると、インストーラ起動画面が表示されます。「次へ(N)>」をクリックして、vCenterプラグインのインストールウィザードを開始すると、インストール先の選択画面が表示されるので、インストールフォルダを指定します。



図 17: インストール先の選択画面

デフォルトでは、C:\Program Files\Fujitsu\SVFAB\フォルダが設定されています。この場合、以下のディレクトリが作成されます。

C:\Program Files\Fujitsu\SVFAB\vCenterPlugin

「次へ(N)>」をクリックすると、インストールが開始されます。

2. インストールが完了すると、ウィザードの完了画面が表示されます。ウィザードの完了画面にインストールの結果が表示されます。「完了」をクリックしてインストーラを終了します。

 vCenterプラグイン関連のファイルを編集/追加/削除すると、動作に影響を及ぼす可能性があります。このマニュアルに記載されている操作以外のいかなる操作も絶対に行わないでください。

## 4.3. インストール後の設定

vCenterプラグインのインストールが完了したら、ファイアウォールの設定と、場合によってはポートの変更を実施したあと、vCenterプラグインをvCenter Serverに登録します。

### 4.3.1. ファイアウォールの設定とポートの変更

vCenterプラグインが使用するポートは「1.3.4 Fabric Managerの利用ポート」に記載されています。それぞれのポートが利用できるようファイアウォールを設定してください。

また、他のアプリケーションとポート番号が重なる場合には、以下の手順を参考にしてポート番号の変更を検討してください。

#### 1. vCenterプラグインのインストール先の「Program

Files¥Fujitsu¥SVFAB¥vCenterPlugin¥tomcat6¥conf」フォルダに存在する「server.xml」ファイルをエディタで開きます。エディタは管理者権限で実行してください。

#### 2. 25465番のポート番号を変更するには、ファイル内で下図のように定義されている「Connector port」属性を検索し、右辺の値を変更したい番号に書き換えた後、ファイルを保存します。

```
...
<Connector port="25465" redirectPort="25466"
connectionTimeout="20000" protocol="HTTP/1.1">
...
```

同様に、25464番ポートの場合は「Shutdown Port」属性、25466番ポートの場合は「redirect Port」属性、そして25467番ポートの場合は「AJP Connector Port」属性をそれぞれ検索して、番号を変更してください。

- 
3. [スタート] - [管理ツール] - [サービス]で表示されるサービスの一覧から「Apache Tomcat svfabApp」サービスを選択し、再起動をクリックしてサービスを再起動します。

**i** 受信ポート番号を変更した場合、デスクトップ上のショートカットを使用するためには、設定されているURLも別途修正してください。URLの書式は以下の通りです。

http://<IPアドレス>  
<変更ポート>/NCCM/src/html/pluginRegistration.html

#### 4.3.2. vCenterプラグインの登録

1. vCenterにvCenterプラグインを登録します。インストールによってデスクトップ上に作成されるvCenterプラグインのショートカット(SVFAB vCenter Plug-in Registration)をダブルクリックして、vCenterプラグインの登録画面を表示します。

**i** Webブラウザで次のURLにアクセスしても登録画面を表示できます。  
http://<IP アドレス>

<受信ポート>/NCCM/src/html/pluginRegistration.html

2. 「Plug-in Registration」部の入力項目に、下記の表を参考に適切な値を設定します。「Register」ボタンをクリックして登録に成功すると、画面に「You have successfully completed to register Fujitsu ServerView Fabric Manager vCenter Plug-in.」と表示されます。

以上で、vCenter ServerへのvCenterプラグインの登録は完了です。

**i** デスクトップ上のSVFAB vCenter Plug-in Registrationショートカットはプラグインのアンインストールにも使用します。

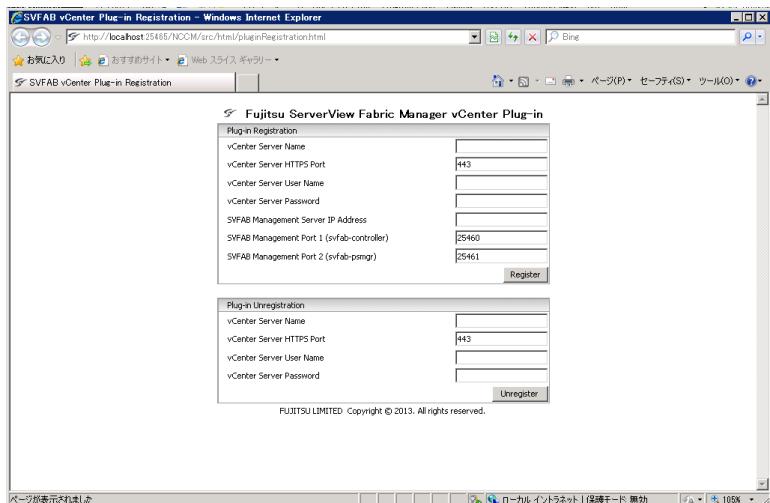


図 18: vCenter プラグインの登録画面

項目名	設定内容
vCenter Server Name	vCenter Serverの名前またはIP アドレス
vCenter Server HTTPS Port	vCenter Serverに設定した、vSphere Clientからの接続待機用のポート番号(デフォルト値: 443)
vCenter Server User Name	vCenter Serverのユーザ名
vCenter Server Password	vCenter Serverのパスワード

表 8: vCenter プラグインの登録 - vCenterに関する設定項目

項目名	設定内容
SVFAB Management Server IP Address	SVFAB中央管理用サーバのIPアドレス
SVFAB Management Port 1 (svfab-controller)	SVFAB中央管理用サーバのポート1(デフォルト値: 25460)
SVFAB Management Port 2 (svfab-psmgr)	SVFAB中央管理用サーバのポート2(デフォルト値: 25461)

表 9: vCenter プラグインの登録 - SVFAB中央管理用サーバに関する設定項目

ここで設定した項目は、vCenter プラグインの管理画面でいつでも変更できます。VMware vSphere Clientを使用してvCenter プラグインの画面を開き、

「Management Menu」内の「Installation」 - 「Plug-in Configuration」をクリックするとプラグイン設定画面が表示されます。設定または変更を行いたい項目に値を入力し「Save」をクリックしてください。

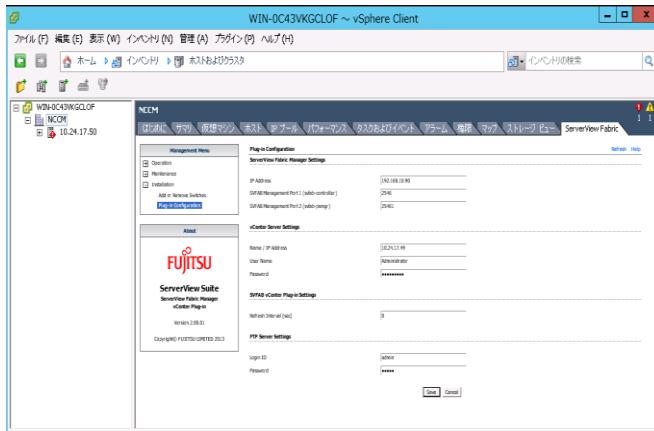


図 19: プラグイン設定画面

項目名	設定内容
IP Address	SVFAB中央管理用サーバのIPアドレス
SVFAB Management Port 1 (svfab-controller)	SVFAB中央管理用サーバのポート1(デフォルト値: 25460)
SVFAB Management Port 2 (svfab-psmgr)	SVFAB中央管理用サーバのポート2(デフォルト値: 25461)

表 10: vCenterプラグインの設定 – ServerView Fabric Manager Settingsに関する設定項目

項目名	設定内容
User Name	vCenter Serverのユーザ名
Password	vCenter Serverのパスワード

表 11: vCenterプラグインの設定 – vCenter Server Settingsに関する設定項目

項目名	設定内容
Refresh Interval	プラグイン画面の更新間隔を秒単位（有効値：0～999）で指定してください。 デフォルト(0を設定した場合)は、プラグイン画面の

---

	自動更新は行いません。
--	-------------

表 12: vCenterプラグインの設定 – SVFAB vCenter Plug-in Settingsに関する設定項目

項目名	設定内容
Login ID	FTPサーバのログインID
Password	FTPサーバのパスワード

表 13: vCenterプラグインの設定 – FTP Server Settingsに関する設定項目

vCenterプラグインの使用方法の詳細は、ユーザーズガイドの「5. vCenter Server連携」を参照してください。

## 4.4. アップデートインストール

アップデートインストール方法について説明します。

vCenterが導入されているサーバで、アップデートするバージョンの「svfab\_vcplugin.exe」を管理者権限で実行します。VCプラグインのアップデートインストールはダイアログ形式で進みます。

- i インストールウィザードの表示までしばらく時間がかかることがあります。
- i インストールされているFabric Managerと同じ「svfab\_vcplugin.exe」を実行すると、アプリケーションの削除を確認する画面が表示されます。「はい」ボタンをクリックするとFabric Managerがアンインストールされてしまうので、「いいえ」ボタンをクリックしてプログラムを終了してください。

1. インストールウィザード起動後「次へ (N)>」をクリックし、インストール先の選択画面に進みます。vCenterプラグインのインストール先のフォルダを指定します。



図 20：インストール先の選択画面

デフォルトでは、C:\Program Files\fujitsu\SVFAB\フォルダが設定されています。この場合、以下のディレクトリが作成されます。

C:\Program Files\fujitsu\SVFAB\vCenterPlugin

「次へ (N)>」をクリックすると、インストールが開始されます。

2. インストールが完了すると、ウィザードの完了画面が表示されます。ウィザードの完了画面にインストールの結果が表示されます。「完了」をクリックしてインストーラを終了します。

**⚠ vCenterプラグイン関連のファイルを編集/追加/削除すると、動作に影響を及ぼす可能性があります。このマニュアルに記載されている操作以外のいかなる操作も絶対に行わないでください。**

## 4.5. アンインストール

本節では、vCenterプラグインを仮想管理サーバからアンインストールする手順を説明します。vCenter Serverに登録していたvCenterプラグインの登録を解除した後、vCenterプラグインのアンインストールを実施します。最後に、セキュリティの観点からvCenterプラグインのために開けていたポートを閉じます。

### 4.5.1. vCenterプラグインの登録解除

vCenterプラグインをアンインストールする前に、vCenter ServerからvCenterプラグインの登録を解除します。

1. デスクトップ上のSVFAB vCenter Plugin Registrationショートカットをダブルクリックして、vCenterプラグインの登録画面を表示します。



Webブラウザで次のURLにアクセスしても登録画面を表示できます。

http://<IP アドレス>:

<受信ポート>/NCCM/src/html/pluginRegistration.html

2. 「Plug-in Unregistration」部の入力項目に、下記の表を参考に適切な値を設定します。「Unregister」ボタンをクリックして登録の解除に成功すると、画面に「You have successfully completed to unregister Fujitsu ServerView Fabric Manager vCenter Plug-in.」と表示されます。

以上で、vCenter ServerからのvCenterプラグインの登録解除は完了です。VMware vSphere Clientにログインし、「ServerView Fabric」タブが表示されないことを確認してください。

項目名	設定内容
vCenter Server Name	vCenter Serverの名前またはIP アドレス
vCenter Server HTTPS Port	vCenter Serverに設定した、vSphere Clientからの接続待機用のポート番号(デフォルト値: 443)

	443)
vCenter Server User Name	vCenter Serverのユーザ名
vCenter Server Password	vCenter Serverのパスワード

表 14 : vCenterプラグインの登録解除 - vCenterに関する設定項目

## 4.5.2. vCenterプラグインのアンインストール

プラグイン登録を解除した後、vCenterプラグインをアンインストールします。

1. コントロールパネルにアクセスし、「プログラムと機能」を起動します。
2. 「ServerView Fabric Manager vCenter Plug-in」を右クリックし、表示されるコンテキストメニューより「アンインストール」を選択します。
3. アプリケーションの削除を確認する画面で、「はい(Y)」をクリックすると、vCenterプラグインのアンインストールが開始します。アンインストール完了画面が表示されたら、アンインストール完了です。

## 4.5.3. アンインストール後の設定

ファイアウォールの設定を確認し、vCenterプラグインのために開けたポートを閉じてください。

## 4.6. トラブルシューティング

### 4.6.1. vCenterプラグインの登録を解除せず、アンインストールを行った

vCenterプラグインの登録解除を行わず、vCenterプラグインをアンインストールすると、vCenter Serverに登録したvCenterプラグインの登録情報が削除できなくなる。

---

「svfab\_vcplugin.exe」を実行し、vCenterプラグインをインストールすると  
vCenterプラグインの登録が解除できます。vCenterプラグインの登録を解除してから、再度vCenterプラグインをアンインストールします。

# 5 管理対象ネットワーク装置の設定

ここでは、Fabric Managerで管理対象ネットワーク装置を管理するためにコンバージドファブリックおよび物理スイッチ側に必要な設定項目を記載します。

**i** コンバージドファブリックを管理するためには、あらかじC-Fabricの物理構成を構築し、仮想代表IPアドレスの割当てを実施しておく必要があります。Fabric ManagerはこのIPアドレスでコンバージドファブリックにアクセスします。

**i** また、コンバージドファブリックのCIRポートとEndPointポートのポート種別を適切に設定しておいてください。このとき、Leaf ドメインに属するスイッチのポートにCIRポートの設定を行わないようにしてください。

**i** コンバージドファブリックの物理構成構築方法の詳細については、コンバージドファブリックの機能説明書や設定事例集をご覧ください。

## 5.1. IPアドレス/ゲートウェイの設定

対象装置に対してネットワーク経由でアクセスできる状態にします。

管理サーバがマルチホーム環境の場合でかつ、対象装置がFTPサーバ機能をもたない場合、対象装置から管理サーバのすべてのインターフェースに対して通信できるようにゲートウェイおよび、ネットワークを設定してください。

## 5.2. SSHの設定

SSHでログイン可能な状態にします。

---

 ネットワーク装置には、ログイン時のプロンプトを変更できる機種があります。Fabric Managerで管理する装置は、プロンプトを初期状態から変更しないでください。変更した場合処理がうまく動作しなくなる場合があります。

## 5.3. SNMPの設定

SNMPエージェントの機能を有効にし、中央管理用サーバからSNMPで情報を取得できるようにマネージャ情報を登録します。また、SNMP Trapの送信機能を有効にし、送信先に中央管理用サーバのアドレスを指定します。

## 5.4. LLDP (Link Layer Discovery Protocol)の有効化

以下の装置では、デフォルトでLLDPの送受信が無効化されているため、LLDPの送信と受信を全ポートで有効に変更します。変更手順については、各装置のマニュアルを参照してください。

- PRIMERGY コンバージドファブリックスイッチブレード (10Gbps 18/8+2) (PY-CFB101)
- コンバージドファブリックスイッチ [CFX2000R] (PY-CFX20R)
- コンバージドファブリックスイッチ [CFX2000F] (PY-CFX20F)
- PRIMERGY スイッチブレード (1Gbps 18/6) (PY-SWB101)
- PRIMERGY スイッチブレード (1Gbps 36/8+2) (PY-SWB102)
- PRIMERGY スイッチブレード (1Gbps 36/12) (PY-SWB103)
- PRIMERGY スイッチブレード (10Gbps 18/8) (PY-SWB104)
- PRIMERGY スイッチブレード (10Gbps 18/8+2) (PY-SWB105)

以下の装置では、デフォルトでLLDPの送受信が有効です。

- SR-X316T2、SR-X324T2、SR-X340TR1、SR-X526R1

---

## 5.5. FTPサーバの設定

FTPサーバをもつ装置は機能を有効であることを確認します。コンバージドファブリックを含めFabric Managerが管理する装置では、初期値が有効なので別途変更を加えていなければ設定は不要です。FTPサーバ機能は、Fabric Managerがファームウェアの更新、および構成定義ファイルの適用に使用します。具体的な装置の設定方法に関しては、それぞれの装置のマニュアルを参照してください。

仮に、SVFABからファームアップとコンフィグ適用を行なわないのであれば、設定を無効化することは可能です。

## 5.6. AMPP機能の設定

コンバージドファブリックのAMPP機能を有効にします。AMPP機能を使用しない場合、設定する必要はありません。設定しない場合、ポートプロファイルを利用して生成した仮想ファブリックは仮想マシンとの通信を確立できません。AMPP機能を有効にしない場合は、仮想ファブリックの作成に固定VLANを利用してください。AMPPの機能に関しては、コンバージドファブリックの機能説明書を参照してください。

コンバージドファブリックのコンソールに接続し、以下のコマンドを入力して設定を有効にしてください。#と(config)#は、プロンプトを表します。

```
#configure
(config)#evb ampp arp on
(config)#save
(config)#commit
```

---

# 6 データベース

## 6.1. データベースのバックアップ/リストア

Fabric Managerデータベース(SVFabDB)は、ServerView Operations Managerのインストール時に指定したバックアップモードおよび、バックアップパスで定期的にバックアップされます。

**i** Fabric ManagerはServerView Operations Managerが提供するSQL Serverを使用します。データベースのバックアップおよびリストアに関する操作仕様および詳細については、ServerView Operations Managerのマニュアルをご覧ください。なお、SVFABのデータベースのバックアップファイル名は SVFabDBData.bakとなります。